【サロマ湖地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●サロマ湖の環境保全(地域全体の取り組み)

●サロマ湖の環境保全(地域全体の取り組み)				
(1)水産業を核とした地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)			関連資料	
地域 MV における取組	【地域の目指す姿】	取組場所	【取組の様子】	
の位置付け	①漁場環境保全・改善と循環型社会への対応 ・サロマ湖の環境保全	(in the second	令和5年のサロマ湖環境調査について	
	・サロマ湖の環境体主・養殖許容量自主規制の実施・養殖許容量自主規制の実施	taller att.	〔サロマ湖養殖漁業協同組合調査結果から引用〕	
	【主な取り組み】	Table P	●サロマ湖水質環境(北海道大学芳村先生)	
	〇サロマ湖環境モニタリング調査			
	〇サロマ湖増養殖研修会(報告会) 〇サロマ湖環境保全対策連絡協議会	91/1000 Page 10000	原則として毎週水温、塩分及びクロロフィルa量を測定した。水	
	り ロマ 小泉境休主対泉建裕 励職去		温については例年8月下旬には水温低下がみられるが、今年は水	
現状における取組実	第4種サロマ湖漁港において、サロマ湖とオホーツク海を結ぶ2つの湖口を通じ日々の潮位干満差による	オホーツク海との海水交換が、湖内	温 24℃を超える高水温が観測された。8 月上旬には降水があり、	
施の背景	の水質や底質の浄化に大きな役割を果たしている。しかし、サロマ湖は半閉鎖性海域という地理的条件から		一時水温と塩分が低下したものの、その後植物プランクトンの異	
	域からの外的な過剰な負荷、そして漁業生産活動に起因する内的な負荷によって、水質や底質環境の悪化を	を招きやすい特性があるため、漁場環	常発生に伴い表層でクロロフィルa濃度が上昇した。	
	境保全に取り組み、ホタテガイ・カキの養殖許容量自主規制を実施している。			
 取組により期待する	・湖内における調査結果の蓄積が図られ、今後の検討の基礎資料となる。		※上段:水温	
効果	・関係機関との連携と情報の共有により、漁場環境保全の推進が図られる。		中段:塩分	
	・環境収容力を考慮した資源管理型漁業の継続が図られる。		下段:クロロフィル a	
			ブイ5 日付	
(2) 取組内容・実施体	 本制(Do)		4/1 5/1 6/1 7/1 8/1 9/1 水温 [℃]	
取組内容、方法、手	【取組内容、方法、手順】		0+	
順、実施体制	・サロマ湖環境モニタリング調査		2- 4- 6 三 8- 12 12 12 18 22 20 18 18 16 16 11 18 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	
	・サロマ湖増養殖研修会(高水温対策緊急打ち合わせの様子を web で公開)及びサロマ湖環境保全対策	連絡協議会による情報共有 (8/9)	E 6 12 20 18	
	【実施体制】サロマ湖養殖漁協・湧別漁協・佐呂間漁協・常呂漁協 【お読みの役割】 ※悪な思索の実施、関係民体との連絡調整及び情報共享		医 6- 12 18 22 18 16 16 14 12 12 12 18 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	
	【協議会の役割】必要な調査の実施、関係団体との連絡調整及び情報共有 【大学及び試験研究機関との連携】国立環境研究所・北海道立総合研究機構地質研究所・北海道大学・東京	5. 曹坐大学,北海道栽培海类堀棚公社	聚 12 8 14 20 12 10	
	【ハチ及び高歌明光版例との建物】国立境税明光別 北海道立総日明光版構造員明光別 北海道ハチ 米次 など	水质未入于 北海道极坦温未派共立性	16 16 8 6	
			18 4	
			ブイ5 日付	
(3) 効果項目に対する	5評価(Check)		- 4/1 5/1 6/1 7/1 8/1 9/1 塩分 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
効果目標の達成度評	令和 2 年において、サロマ湖養殖許容量を見直す検討が実施されたところ、環境モニタリング調査結果な		2 3 32.5 33.0 33.5 33.5	
価	とが望ましいとの結論により、許容量の継続が決定され、恒久的な自主規制が実施されており、安定的な利	 貫の育成や養殖ホタテガイの生産を	G 6 32.0 33.5 33.0 33.0	
	実現しているほか、サロマ湖の環境保全にも貢献している。		三 8 bb 10 33.5 32.5	
反省点	- 観測ブイのセンサーのメンテナンス(清掃)等を、定期的に実施する必要がある。また、センサー部の更	新も視野に検討が必要。	版 10	
			16-	
(4) 取組の改善措置	(Action)		18 359.03.3 3247.0 31.0	
取組内容の改善点	センサー部の次年度更新を検討している。			
			ブイ5 日付	
职组《中华》	- 四本の地上は他上来四条切らいまでとう		4/1 5/1 6/1 7/1 8/1 9/1 Chl-a [μg/l]	
┃取組の実施に必要な ┃もの	調査の協力体制と費用負担が必要である。		2 10 10 12 10 10 12	
007			71 2	
			E 8 2 4 2 8 6 6 4 8 6 4	
			既 12 4 2 4 2 10 4	
			14- 16- 16- 16- 16- 16- 16- 16- 16- 16- 16	
			18 2 4 0 2 4 0 0	

●情報発信・地域づくり活動(地域全体の取り組み)

	」活動(地域全体の取り組み) 地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)		
地域 MV における取組 の位置付け		取組場所	
現状における取組実施 の背景	どを通して次世代を担う青少年を育成し、サロマ湖地域内外との交流を促進しながら、地域の活性化を	、サロマ湖地域では、3漁協の女性部や青年部が体験漁業や学校での出前授業などへの活動や取り組みを行ってきた経過があり、活動な 通して次世代を担う青少年を育成し、サロマ湖地域内外との交流を促進しながら、地域の活性化を図っている。 2町、3単協及びサロマ湖養殖漁業協同組合が地元の関連産業と連携し、地産地消や交流の場として地域の活性化に寄与している。 マ湖地域の漁業、行政、関係機関が一体となって、安全安心な漁業地域づくりを推進している。	
取組により期待する効 果	サロマ湖地域の各種取り組みを通じて、将来の魚食文化を支える子ども達に、地域の水産物に対する理解を深めてもらい魚食の普及を図るとともに、地域漁業後継者等の育成を期待している。 ・女性部及び青年部によるイベント等の開催目標数 4回 ・各地域特産物販売イベント等の開催目標数 3回		
(2) 取組内容・実施体	制(Do)		
取組内容、方法、手順、 実施体制	、【取組内容、方法、手順】 令和5年に開催したイベントなど ・北見地産地消フェスタ 2023 (9/2) ・中央省庁内食堂北見地場産品 PR 事業【ホタテ規模拡大】 (12/11~) 北見地産地消推進委員会 ・牡蠣まつり (11/23) 常呂漁協直売店 (友好提携協定締結先・岐阜県いび川特産「富有柿」も販売。) ・常呂漁協のカキ・ホタテの販売会 (友好提携締結先・岐阜県いび川にて販売。) ・ところ物産まつり (12/10) (北見市) ・常呂中学校料理講習会 (11/9) 常呂漁協女性部 ・オホーツクお魚普及料理講習会【旭川市】 (10/14) 北見地区青年部女性部 ・湧別産のホタテ稚貝とオホーツク産玉ねぎを使った期間限定のご当地カレー、「チガイのわかるカレー」を湧別町内7店舗で提供 (5/25~7/10) 湧別町商工会女性部 ・湧別サロマ湖龍宮えびホタテまつり (7/23) 実行委員会 ・湧別漁協かき特別販売 (11/26) 湧別漁協卸売市場 ・湧別町産業まつり (9/23) 実行委員会 ・水産物消費拡大支援事業【札幌市他】(11/1~) 湧別町産業間ネットワーク ・佐呂間町観光物産協会物販参加 (三田カーニパル (7/22・東京都) 、港区民まつり (10/7~8・東京都) 、全国交流物産展 in 新橋 (10/26~27 東京都) 、都農町産業まつり (11/5・宮崎県)) ・佐呂間大収穫祭 (10/1) ・佐呂間小5年生ホタテ授業 (11/27) ロープワークやホタテの解剖などを漁協青年部が講師になり学習 ・佐呂間小学校4年生ホタテ授業 (11/29) 町長が講師として総合的学習出前授業 ・佐呂間小学校4年生ホタテ授業 (11/29) 町長が講師として総合的学習出前授業 ・佐呂間小学校4年生ホタテ良設を使った絵手紙作成 (12/14) 【実施体制】湧別漁協・佐呂間漁協・常呂漁協・湧別町・佐呂間町・北見市		
(3) 効果項目に対する	評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	・女性部及び青年部によるイベント等の開催数 4回 ・各地域特産物販売イベント等の回数 13回		
反省点	・新型コロナウィルス感染症が5類へ移行されたが、以前の生活意識や行動がすぐに戻ることは無かったため、活動に影響はあった		
(4) 取組の改善措置(/	l Action)		
取組内容の改善点			
取組の実施に必要なも の	・活動に係る地域及び関係機関の連携		

取組の様子】

●物産まつり



●産業まつり

関連資料



●常呂中学校料理教室

●オホーツクお魚普及料理講習会





●チガイのわかるカレー

●ほたてがみ(貝殻手紙)





●ブランド化(各地域の取り組み・湧別漁協)

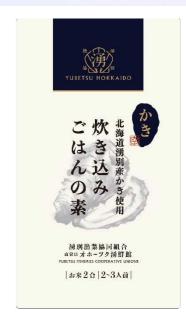
	地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)	
地域 MV における取組の位置付け	【地域の目指す姿】 ③水産物の付加価値向上と流通体制の整備 【主な取り組み】 ・生食用1年カキ貝を「漁師が恋した小さな牡蠣 COYSTER」としてブランド展開 ・2年カキ貝を「龍宮かき」の商標登録を申請しブランド展開 ・湧別漁業協同組合のオリジナル商品としてサロマ湖で獲れた牡蠣を使用した「かきの炊き込みごはんの素」を新商品として開発中	取組場所
見状における取組実施 の背景	1 年物のむき身は、水揚げがピークとなる 12 月頃に出荷数が過剰になると価格が下落していた。また、で消費されているが、販路拡大により道外消費を促すため全国へのPR活動が必要となっていた。	サロマ湖産カキ貝の多くは主に道内
収組により期待する効果	・北限のカキ貝としてブランド化することにより、価格の下落を防ぐ。・ブランド化することによる全国へのPR展開。・牡蠣の新たな需要が創出されサロマ湖湧別産牡蠣の認知度向上が図られる。	
(2) 取組内容・実施体	制(Do)	
実施体制	・牡蠣を湧別町ふるさと納税の返礼品として登録し、ブランド化の知名度向上を図る。 ・秋サケのブランド化に取組み、4.5 kg以上の選び抜いたオスのサケを船上で活〆したものを「湧勝(P 売。 ・牡蠣加工品を湧別町ふるさと納税の返礼品としての登録を検討する。	ゆうしょう)」として令和2年度に販
(3) 効果項目に対する		
効果目標の達成度評価	・牡蠣をふるさと納税返礼品として継続的に登録し、知名度向上が図られた。 【1年かきむき身「COYSTER」】【2年殻付かき「龍宮かき」】	
反省点	ブランドの知名度向上に向けた情報発信力の強化が必要。 秋サケ漁が多忙であったため、船上活〆を行う時間が取れず「湧勝」として販売できなかった。	
(4) 取組の改善措置(/	Action)	
取組内容の改善点	・イベント主催者や企業等との連携により、新たなPR方法の検討。 ・供給量の確保が必要である。 ・ブランド化の継続的な取り組み。	
取組の実施に必要なも の		

【取組の様子】



関連資料





●ロボット等設備を導入した自営加工場の検討(各地域の取り組み・湧別漁協)

	、した目宮加工場の検討(各地域の取り組み・湧別漁協) 地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)		
地域 MV における取組 の位置付け	【地域の目指す姿】 ④漁協経営の健全性の維持 【主な取り組み】	取組場所	【取
	・漁業操業や漁協自営加工事業の効率的な推進		【 市
現状における取組実施 の背景	湧別漁協では、平成 27 年度から平成 28 年度の 2 ヶ年間において、一般社団法人日本ロボット工業会 択を受け、ホタテガイ加工分野でのロボット活用における省力化・省人化の有意性についての実証事業	を行った。	
取組により期待する効 果	実証事業により熟練作業員の技術と同等以上の作業性・品質性が確認されており、ロボット活用によりも可能となる。 ・人員削減 ・製品歩留りの向上 ・様々な形、大きさの原貝への対応	安全性が図られ、かつ増産拡充の構築	【上
(2) 取組内容・実施体			
取組内容、方法、手順、 実施体制	・高齢化や人手不足が課題とされているホタテガイ加工の現場において、先端的なロボット活用が省人 続。 ・新型コロナウィルス感染症拡大により外国人技能実習生が来日できないなど、働き手不足が深刻なこ 動生剥き機(オートシェラー)」を1台増設し、加工処理体制の維持を図った。 ・令和4年度より、ホタテガイ自動生剥き機を整備する「ほたて玉冷加工場」の建設に着手した。		
(3) 効果項目に対する			【令
	・網走水産試験場による品質試験等により、手剥きとほぼ同等な品質であることが確認された。 ・省人化の実現(11 名→2 名) ・製品歩留りの向上(0.71%向上) ・ロボット改良による作業効率の向上。		
反省点			
(4) 取組の改善措置(
取組内容の改善点	・輸出拡大に向けた HACCP 施設への対応。 ・様々な形、大きさ原貝への対応できるよう改良を重ねていく。		
取組の実施に必要なもの			

【取組の様子】

[ホタテガイ自動生剥き機(オートシェラー)]



関連資料

【上貝の開口工程】



【令和6年2月竣工予定のほたて玉冷加工場】



●水産業の ICT 化(地域全体の取り組み)

(1) 水産業を核とした	地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)		関連資料
地域 MV における取組 の位置付け	【地域の目指す姿】 ⑤サロマ湖の環境保全への対応 【主な取り組み】 ○5基の水質観測ブイの設置 ○水温や風向・風速などの観測・逐次情報の発信 ○観測結果データの収集	取組場所	【取組の様子】 ◆観測しているデータをサロマ湖養殖漁業協同組合のホームページで情報を公開。 サロマ제気用漁業協同組合 ***********************************
現状における取組実施 の背景	サロマ湖では、5基の水質観測ブイを設置し、サロマ湖養殖漁業協同組合のホームページで逐次情報を 者が、いつでも最新の情報を確認できる体制を構築し取り組んでいる。	公開しており、情報を必要とする関係	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##
取組により期待する効 果	・湖内における調査結果の蓄積が図られ、今後の検討の基礎資料となる。・漁業者や関係者などが、サロマ湖の水質観測情報を必要な時に確認ができる。・関係機関との情報の共有化にともない、サロマ湖の環境保全の推進が図られる。・環境に配慮した資源管理型漁業の継続が図られる。		# 1.5 mm (金元 1.5 mm) (金元 1.5
(2) 取組内容・実施体			● 地上では最後的できる。 のできたは最初であります。これできる日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日
取組内容、方法、手順、 実施体制	【取組内容、方法、手順】 ・水質観測ブイの設置による観測 ・高水温対策緊急打ち合わせの様子を web で公開 【実施体制】サロマ湖養殖漁協		
(3) 効果項目に対する	評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	水質観測の結果から、漁業者の養殖作業等の実施の判断に活用されている。 年間 16 万件以上のアクセス数があり、観測ブイデータが活用されている。		
反省点	ブイのセンサーに付着物による汚れ等により、データに誤差が生じることがあり、定期的に除去作業が	必要になる。	
(4) 取組の改善措置(Action)		
取組内容の改善点	ホタテガイの養殖作業日誌のデジタル化や採苗の効率化、生残率の向上の検討が必要なほか、ホームペマ湖の結氷状況についてもリアルタイムで情報発信ができるように検討が必要である。	ージの情報を拡充し、冬期間のサロ	
取組の実施に必要なもの	気象変動観測衛星「しきさい」の観測情報と解析技術		